

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の取組目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						予定場所	内容(詳細に記載すること)
親子あめた参加希望者250名以上	なるほど献血教室	継続	小学校高学年とその保護者	平成23年7月後半～8月前半	6回	広島県赤十字血液センター・日本赤十字社広島県支部	小学4～6年生とその保護者を対象に、血液センター・夏休みに開催、親子あめたの献血者増進に努めるとともに保護者への献血協力を促す。実施方法は広島市内及びその周辺の小学校高学年を主に対象にチラシ配布、また県内の広域献血センター等で実施を行う。見学会には献血資料や「V」ポイントを配布する。
訪問献血12校	献血教室	継続	高校献血実施校員17大学・短大・専門学校生	平成23年4月～平成24年3月	随時	各学校	献血実施校の生徒を対象とし、献血の必要性を説明、その後の校内献血への参加を促す。
受入校数5校	職場体験学習	継続	県内中学生	平成23年4月～平成24年3月	随時	広島県赤十字血液センター	中学校が「ケイラム」の職場体験学習を積極的に導入し、参加生徒に献血の必要性を訴え親友の献血者確保に努める。
10代～20代の献血者を27%にする。	献血セミナー	継続	大学生(短大生含む)	平成23年4月～平成24年3月	2回	広島県赤十字血液センター	献血に関するセミナーを開催し、献血への理解を深め、献血協力、呼びかけ、普及の協力をお願いする。
10代の献血者を4%とする。	高校生等予定者献血広域資料配布	継続	高校生(卒業予定者)	平成24年1月	1回	各学校	卒業予定の高校生に献血に関する広域資料を23000部配布する。日頃から「献血」が身近に感じられるよう、また卒業後も献血に関心を持ってもらうため、10代の献血者を4%を目標とする。

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の取組目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						予定場所	内容(詳細に記載すること)
54歳以上の血小板成分献血者に対する献血依頼率30%の達成率を確保する		新規	54歳以上の血小板献血者(血小板献血者)	4月	1回	血液センター	献血者の重要性を、54歳以上の血小板献血者の方へハガキでお知らせし、引き続き協力のお願いをします。対象は1970年1月以降の血小板献血者で23年3月末現在54歳以上の約700名。情報提供や献血依頼を行うことにより、対象者の約30%(210名)から血小板献血に協力いただく。

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の取組目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						予定場所	内容(詳細に記載すること)
新規献血事業所10団体確保	新規協力団体確保対策	継続	献血未実施団体	4月～3月	随時	各事業所等	新規事業所の開拓を行う。

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の取組目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						方法	内容(詳細に記載すること)
複数回献血者確保目標人数5,483人	複数回献血クラブ会員募集	継続	複数回献血クラブ未登録者	平成23年4月～平成24年3月	随時	複数回献血クラブ登録活動	複数回献血クラブ登録活動、リーフレットの作成・配布と職員による勧誘。
メール契約申込率15%を目標	複数回献血クラブ会員募集	継続	複数回献血クラブ会員	平成23年4月～平成24年3月	1回以上	登録者への献血依頼メール配信	これまで不足分のみ配信していた献血依頼メールを1回以上配信する。タイムズは月間とし、今後の改善を含めた献血依頼を定例的に配信することにより、登録者に複数回献血への協力を促す。
月平均献血率27%を目標とする	ハガキによる献血依頼	継続	血小板献血協力者	平成23年4月～平成24年3月	1回	誕生日献血の依頼(3ヶ月以上未献血者への協力依頼)	誕生日を迎える血小板献血者に向けて毎月月に献血依頼ハガキを送付。対象者が献血参加した場合記念品を配布する。
ハガキ契約申込率38%を目標とする	ハガキによる献血依頼	継続	県内400mL献血協力者	平成23年4月～平成24年3月	随時	移動献血バス400mL協力者への献血依頼	移動献血バスでの協力者に両側での献血を依頼するハガキを送付し献血協力を促す。

⑤ その他

平成23年度の取組目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						方法	内容(詳細に記載すること)

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の取組目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						予定場所	内容(詳細に記載すること)
30歳未満の献血者の割合を20%にする	セミナー開催	継続	山口県学生献血推進協議会(短大・高専・大学生)	通年	年間2回開催	血液センター・食糧室	年2回講師を依頼し、献血についての知識、現場の普及、他団体との交流を盛り込んだ協力を広げる。
30歳未満の献血者の割合を20%にする	学生推進協議会役員会	継続	山口県学生献血推進協議会(短大・高専・大学生)	通年	年間15回開催	血液センター・食糧室	山口県学生推進協議会の企画、運営を行う。また加盟団体の情報交換の機会をもち、連携を深める。

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の取組目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						予定場所	内容(詳細に記載すること)
参加者合計250名	小学生親子血液センター見学体験教室	継続	小学生高学年	夏休み	6回	血液センター	血液センター及び献血車・血液センターの見学、献血・献血についてスライドで説明、献血DVDの上映、献血体験教室
県下全校の小・中・高校を対象に合計40校	献血出張講座	継続	小・中・高校生	通年	40回	各学校	献血・献血についてスライドで説明、献血DVDの上映。
応募ポスター150点、作文100点	献血ポスター・作文の募集	継続	中・高校生	8月～10月	1回		県下全校に募集し選考委員により表彰を選手し集にて表彰。
17,200部	献血本紙の配布	継続	中・高校生	6月	1回	各学校	高校1年生全員及び中・高校各学級に1冊。

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の取組目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						予定場所	内容(詳細に記載すること)
20社	新規献血協力企業確保	継続	新規企業・休眠企業	通年	1回ずつ	移動献血車・確定献血	県・市町と連携を実施

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の取組目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						方法	内容(詳細に記載すること)
複数回献血協力者5400人の増(12月現在1,978人)	チラシの作成配布(60,000枚)	継続	献血者	通年	随時	配布	登録依頼及び協力
400mL献血者3,000人の増	イベントキャンペーンの実施	継続	献血者	通年(特に減少時)	随時	DM・タウンメール等による要請	移動献血車・確定献血で献血を促す

⑤ その他

平成23年度の取組目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						方法	内容(詳細に記載すること)
各会場400mL献血者10名増	七夕献血		献血者	7月	2回	街頭献血で実施	山口県学生献血推進協議会の協力日誌開催の学生学生ボランティアによる呼びかけ、事前PR(チラシ等)を活用、七夕らしいイベントの実施。
各会場400mL献血者11名増	クリスマス献血		献血者	12月	3回	街頭献血で実施	山口県学生献血推進協議会の協力日誌開催の学生学生ボランティアによる呼びかけ、事前PR(チラシ等)を活用、クリスマスらしいイベントの実施。
確定献血の活性化を毎日100名の献血協力	公開放送		献血者	12月	1回	確定献血で実施	人気番組にゲストを依頼し公開放送を実施し、当日視聴に合わせた協力を求める。

平成23年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所
参加者を340名以上とする。	血液セミナー	継続	小学生(4～6年生)と保護者	7～8月	8回	血液センター
10代の献血構成比を5%にする。	高校献血	新規	高校生	4～7月	5回	対象学校

内容(詳細に記載すること)
2市2町の教育委員会の承認、小学校5年生に寄贈タンク約1200杯を交付し、親子を対象に募集を行い、献血についての学習会、血液センター見学、献血履歴体験等を実施する。
現在休止している高校校内献血を復活させ、県教育委員会等に再開の説明を行い400mL献血受け入れ可能な学校を対象とする。

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所
29歳までの献血構成率を25%にする。	大学献血	継続	大学生	4～3月	10回	各大学構内
	次期献血推進	新規	10～20代	7～2月	3回	各献血会場

内容(詳細に記載すること)
献血推進(1)の展示と啓発DVD放映、ポスター等による推進活動を実施する。実施時期4月4会場、9月4会場、2月2会場の予定。
7月、11月、2月を重点として、献血会場が一帯以上おいている献血者(固定施設で約1000名、移動献血で約200名/平成23年1月時点)を優先し、献血8万杯を交付する。

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所
新規献血協力企業を10社増加する。	献血協力企業・団体増加対策	継続	企業及び団体	4～3月		各事業所
休眠企業の掘り起こし目標10社	献血協力企業・団体増加対策	継続	企業及び団体	4～3月		各事業所

内容(詳細に記載すること)
新規事業所の開拓ならびに休眠企業の掘り起こしを重点所と連携して行う。血液センターでも併み合い各地域の企業状況(経営、既存企業の職員動向等)を関係所から連絡してもらい一層に推進する。

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法
モバイル会員を300名増加する。	複数回献血協力者確保対策	継続	全献血者	4～3月		リフレットの配布及びサイドスポンサーの設置
複数回献血率を30%まで増加させる	複数回献血協力者確保対策	継続	全献血者	4～3月		1.メール発信による要請 2.献血サービスハガキ発送時に併せて依頼

内容(詳細に記載すること)
QRコード及びモバイル支援システムのサイドスポンサーを活用しモバイル会員増加を強化する。
1.モバイル会員に対しメール発信にて依頼要請する
2.献血サービスハガキ発送時に複数回依頼文書を送入する

⑤ その他

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法
移動献血車一台当たりの献血者数40名以上とする		継続	移動献血車配車箇所全献血者	4～3月		

内容(詳細に記載すること)
移動献血車実施会場について時間効率を見直し記載する。

平成23年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所
10代・20代の献血率を現状より2%増加させる。	献血セミナー	継続	大学生・専門学校生・高校生	4月～3月	10回	各学校
	高校生街頭献血キャンペーン	継続	高校生	7月～1月	2回	街頭献血会場

内容(詳細に記載すること)
献血に関するセミナーを開催し献血への理解を深めてもらい、献血率を促す。参加予定人数:400名
献血に関する街頭を行い、その後、街頭献血にて献血呼びかけポスターを行う。このことにより、献血への理解を深めてもらい、再来の献血へのきっかけづくりを行う。参加予定人数:100名

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所
小学生の父兄層(30代～40代)の献血率を現状より2%増加させる。	血液センター親子見学会	継続	小学生	9月	3回	血液センター
	献血出向講座	継続	小学生	10月～12月	10回	小学校

内容(詳細に記載すること)
児童には、献血について分かりやすさを考えたスライド学習により、献血を促す。また、講師に父兄向けに研修資料(ありがたいうちがいっしょに)を渡す。また、講師に父兄向けに研修資料(ありがたいうちがいっしょに)を渡す。また、講師に父兄向けに研修資料(ありがたいうちがいっしょに)を渡す。

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	予定場所
献血協力企業・団体を50団体増加させる	献血協力団体増加対策	継続	企業および団体	4月～3月		各企業および団体

内容(詳細に記載すること)
市町議員等と連携して事業所を訪問し、新規事業所の開拓を行う。

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法
複数回献血者を現状より20%増加させる。	複数回献血協力者確保対策	継続	年1回の献血者	4月から3月		

内容(詳細に記載すること)
1.各献血会場にて複数回献血者クラブ委員の募集を依頼する。2.700名を目標とする。3.電子メール及びハガキを添付して複数回献血の協力依頼。
1.各献血会場にて、複数回献血者クラブ委員を現状より20%増加させる。2.200名(平成22年は約100名)を目標とする。3.電子メール及びハガキを添付して複数回献血の協力依頼。
2.複数回献血者クラブ委員に代り、電子メールにて複数回の献血協力依頼をする。(2,200名を目標として年30回程度)

⑤ その他

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法
献血ルーム1棟増設50人	献血協賛事業	継続	献血ルーム周辺企業及び大学・専門学校・高等学校	4月から3月		

内容(詳細に記載すること)
献血ルーム周辺企業及び大学・専門学校に、協力関係を1週間程度とした献血協力を目的とした献血協賛を依頼する。献血ルームにて献血協力をいただいた企業等に代り、ホームページに掲載する等、協力企業のアピールを行う。このことにより各企業の知名度を上げることにより献血協力(社会貢献活動)を実施し、献血率を促す。
本年度以降は、献血基本法で17歳男性が400mL献血可能となるので、高等学校に献血ルームでの献血セミナー開催及び献血実施を依頼する。

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				実施場所	内容(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	回数		
高校献血実施20校を30校に増加	高校献血の推進	新規	高校生	4月～3月	30	学校及び血液センター	400mL献血量達成に向け、指定協力校にお願いし、各校はもろもろのこと、さらに30校程度の高校にアプローチし、新規10校を目指し献血実施に向けての説明会等を行う。
20代の献血率21年度実績22%を25%にする	若年層献血セミナー	継続	大学生	5月	1	研修施設	献血に關するセミナーを開催し、献血への必要性・重要性の理解を深め、若年層の献血意識の向上を図る。セミナーは年間1回とし、DVD・スライド等の説明用資料を活用する。

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				実施場所	内容(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	回数		
青少年献血ふれあい事業実施10回を20回に増加させる	青少年献血ふれあい事業	継続	小・中・高校生	4月～3月	20	血液センター	教育委員会及び各校区長を擁し、小・中・高校に対し働きかけてもらい、実施校を増加させる。
50代の献血率21年度実績8%を10%にする	60歳以上の献血率の増加	継続	50～64歳の既献血者	4月～3月			県内居住の方で来年度60歳になられる方を対象に44歳まで献血協力いただける様な文章を導入、対象による献血の依頼。(約2,000通程度)

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				実施場所	内容(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	回数		
献血協力企業・団体を10増加させる	献血協力団体増加対策	継続	企業及び団体	4月～3月		各事業所等	新規事業所の開所を行う。(DVD・スライド等の説明用資料を活用し現状を把握してもらう。)

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				実施場所	内容(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	回数		
複数回献血の率をあげるため、複数回献血クラブ会員を新たに2,000名以上確保する。	複数回献血協力者確保事業	継続	複数回献血クラブ会員の400mL献血量並びに成分献血対象者	4月～3月			1.各献血会場において、専用チラシやポスター等を作成し、それらを用いて複数回献血クラブ会員の募集を行う。 2.はがきやDMで複数回献血クラブ会員の募集を積極的に行う。 3.フリーペーパー等を利用して、複数回献血クラブの紹介や入会を勧める。 4.センター直轄施設に複数回献血クラブの配布の掲載数を増やせ、その掲載数を献血者会員へ配布する。 5.FM放送局が持っている、県内にあるデジタルサイネージなどを利用して複数回献血クラブのPRを行う。 6.FM放送局等を活用する。

⑤ その他

平成23年度の数値目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	実施場所	内容(詳細に記載すること)

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				実施場所	内容(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	回数		
体験献血及びセミナーの実施校4校、各々年2回以上の実施、1,000人以上の参加者	若年層確保対策	新規	大学・短大・専門学校生	4月～12月	8	学内	学生ボランティアと協力しながらチラシ等の配布を行う。 また、けん付けちゃんの着ぐるみで呼び込み等を行い、大学生が献血しやすい雰囲気を作る。
10代～20代の献血率23%以上	若年層確保対策	継続	10代～20代の献血者	通年	6	学内・団体及び献血プラザ等	各短大・専門学校等にチラシを配布する。 また、10代～20代を対象に期間を決めてキャンペーン等を6回実施するよう企画する。内容については今後検討していく。 参加目標人数 300人

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				実施場所	内容(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	回数		
60歳以上の献血率5%以上増加		新規	60歳以上の方	4月～12月	6	各献血会場	60歳～64歳までの期間に献血されていない献血者(約300人)に対し、献血依頼のはがきを出す。
献血者参加者100人以上	青少年ふれあい事業	継続	小学生	夏休み	1		新聞広告等を利用して、県内の小学生を対象に募集を行う。 スライド等を利用して、献血の必要性や重要性を分かりやすく説明してもらう。
出前献血設置 6校以上	青少年ふれあい事業	継続	高校生	4月～3月	6	学校内	現在献血を行っている高校5校に対し、献血数等の事前確認を推進する。 また、献血量に対してはスライド、ポップ・スタンプ・ジャンプ、DVD等を使用して献血の必要性等を理解してもらう。

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				実施場所	内容(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	回数		
企業献血における献血者数を対前年比10%増		新規	企業及び団体	通年		各事業所等	担当者に現在の血液需要の現状や必要性を説明し、理解を得る。 また、献血した血液の利用状況等がわかるような資料を作成する。
献血サポーター新規登録企業10校以上	献血協力企業活動推進事業	継続	企業及び団体	通年			企業及び団体へパンフレット・ポスター等を配布し推進する。

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				実施場所	内容(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	回数		
複数回献血クラブ会員数を1,300人以上	複数回献血協力者確保対策	継続	複数回献血者(複数回献血クラブ非会員)	通年			・複数回献血クラブ会員の募集を積極的に行い、はがきやDMによる募集の促進を図る。 ・複数回献血クラブ会員の募集を積極的に行い、はがきやDMによる募集の促進を図る。 ・フリーペーパー等を利用して、複数回献血クラブの紹介や入会を勧める。 ・センター直轄施設に複数回献血クラブの配布の掲載数を増やせ、その掲載数を献血者会員へ配布する。 ・FM放送局が持っている、県内にあるデジタルサイネージなどを利用して複数回献血クラブのPRを行う。 ・FM放送局等を活用する。
複数回献血者30%以上	複数回献血協力者確保対策	継続	献血者	通年			・複数回献血クラブ会員の募集を積極的に行い、はがきやDMによる募集の促進を図る。 ・複数回献血クラブ会員の募集を積極的に行い、はがきやDMによる募集の促進を図る。 ・フリーペーパー等を利用して、複数回献血クラブの紹介や入会を勧める。 ・センター直轄施設に複数回献血クラブの配布の掲載数を増やせ、その掲載数を献血者会員へ配布する。 ・FM放送局が持っている、県内にあるデジタルサイネージなどを利用して複数回献血クラブのPRを行う。 ・FM放送局等を活用する。

⑤ その他

平成23年度の数値目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	実施場所	内容(詳細に記載すること)
血小版献血者数5%増加		新規	55歳以上の男性	通年	6		はがき及びチラシ等による献血依頼 55歳以上の男性献血者(約300人)へ募集要項のお知らせと献血依頼のはがきを添付する。
献血プラザごとの献血者数5%増加		新規	献血対象者	通年	5		はがきによる献血依頼 過去1年間献血されていない方(約200人)へはがきで献血依頼を行う。

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数量目標	事業名	実施・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						実施方法	内容(詳細に記載すること)
年1回	献血セミナー	継続	大学生及び専門学校生	11月	1回	長崎県内	学生ボランティアの研修による組織の活性化を図る。学域内外における献血推進の強化とメンバー相互の連携を図り情報共有する。
年5回	献血セミナー	継続	大学生及び専門学校生	4月～8月	5回	九州ブロック内	学生ボランティアの研修による組織の活性化を図る。学域内外における献血推進の強化とメンバー相互の連携を図り情報共有する。
年2回	献血セミナー	新規	中高生	10月・11月	2回	長崎県内	校内行事として献血推進を実施。10校に依頼して2校実施にむけてすすめる。校内献血実施前に学校側に献血の必要性を強く訴える。
25校	若年層確保対策	継続	高校生	4月～8月	1回	各高校	17歳(男子)以上の400mL献血の推進強化のための学校訪問。現在未実施校も含めて学校訪問し、17歳からの献血受け入れをお願いしていく。行政担当者も可能な限り同行いただく。
10歳～20歳代の献血率が25%以上に増加する	若年層確保対策	継続	10歳～20歳代	4月～3月	5回	献血会場	若者向け献血キャンペーンの実施。学園祭会場に献血コーナーを設置しPRする。

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の数量目標	事業名	実施・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						実施方法	内容(詳細に記載すること)
年2校	青少年献血	継続	小・中学生・生徒保護者及び教員	4月～3月	各校1回	血液センター・献血会場	献血事前説明会、献血会場での小・中学生献血セミナー実施。「献血のしくみを知ろう」(献血者キッズ)小中学生向け対象学年別と九州ブロックで作成した「みんなの献血」パンフレット及び受けたら献血の奨励を活用し、献血会場や事前説明会で実施する。
年100人	若年層確保対策	継続	20歳(新成人)	1月～2月	1回	献血会場	20歳(新成人)への献血ハガキ依頼。過去1年間に献血1回のみの協力者に対して依頼する。
60歳以上の献血率が5%以上に増加する	献血者確保対策	新規	60歳以上	4月～3月	—	献血会場	高齢者の向上と献血基準の改正に併せて献血推進の強化。特に血小板献血について次回の予約や可搬年齢変更のお知らせのほがき依頼をする。
年40人	体験学習	継続	小・中高生	4月～3月	各1回	献血ルーム	献血呼びかけ、施設見学、新聞でのチラシ配布や献血のしくみについての学習をする。
年20人	体験学習	継続	大学・短大・専門学校	4月～3月	各1回	献血ルーム	献血呼びかけ、施設見学、献血体験や学生ボランティアの活動内容の把握と献血のしくみについて学習する。

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の数量目標	事業名	実施・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						実施方法	内容(詳細に記載すること)
新規献血団体等を30社増加する。	献血協力団体増加対策	継続	企業及び団体	4月～3月	—	—	新規及び取り戻し団体・企業との関係
42社の登録確保	献血協力企業活動推進事業	継続	企業及び団体	4月～3月	—	—	企業・団体等を訪問し、献血の必要性を訴え、ご理解の上献血サポーターの登録をお願いする。献血サポーターマークの活用を進めたい。
62回実施	新聞団体などの関係	継続	ライオンズクラブ一級企業	4月～3月	各年2回	献血ルーム	献血ルームでの献血呼びかけと献血実施

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の数量目標	事業名	実施・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						実施方法	内容(詳細に記載すること)
50名	複数回献血協力者及びに赤十字ボランティア数確保	継続	複数回献血協力者及び献血協力者・ボランティア	3月中	1回	電話又はFAX、メールから申し込み	子ども(8月の二重血)上映又はこれに代わり外部講師を招き講演会及び健康生活実践期間講習を開催する。
応酬率 400mL(35%)成分(50%)	メールとハガキによる献血依頼	継続	複数回献血クラブ会員、献血協力者	毎月	未定	ハガキによる依頼	400mL(800名)・成分(1200名)・区分なし(2700名)に対し献血協力依頼。
60名(10%)	「献血して感謝を贈ろう」キャンペーン	継続	複数回献血クラブ会員、献血協力者	4月中	1回	希望者の中から抽選での抽籤決定	日頃から献血に協力いただいている方60名を感謝の気持ちを含めて映画に無料招待し、はじめに「献血よりおれと血液事業の現状について」説明していた後に映画上映をおこなう。

⑤ その他

平成23年度の数量目標	事業名	実施・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						実施方法	内容(詳細に記載すること)
月5ヶ所実施	献血者確保対策の拡大	継続	全献血者	4月～3月	—	イベント等にあわせて合同実施	商業施設及びイベント会場等での休日における献血の拡大

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						予定場所	内容(詳細に記載すること)
10代～20代の献血者数を30%まで引き上げる。	大学内献血の強化	継続	大学生	通年	20回	学内献血会場	事前広報活動でのDVD上映会(それぞれの学内で設置を呼び受けての上映会にひらため人員等は全大学で合計500名)
小学生300人	施設見学会	継続	小学生とその保護者	7月～8月	4回	血液センター	体験型献血セミナーと赤十字事業の紹介 事業方法としては①事前所定生活情報誌(クブライド)夏休み特号記事掲載 ②メール会員への参加券募集メール配信 ③HPへの案内掲載
小学校訪問(出前授業)10回	県内小学校	新規	小学生(保護者)	通年(夏休み以外)	10回	受入れ小学校	17歳未満の子供たちを呼び出し(献血を学ぶ) 出前型献血セミナー。事業方法としては教育委員会経由で各小学校へ案内文書の発送を予定(第一階層としては熊本府80校)

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						予定場所	内容(詳細に記載すること)
10代～20代献血者数を3%上昇させる。		新規	大学生・高校生	夏休み	1回	血液センター	大学生ボランティアの全面運営によるオープンキャンパス献血会セミナーの開催

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						予定場所	内容(詳細に記載すること)
献血協力企業活動推進事業年間ロゴマーク配布80社	献血協力企業活動推進事業	継続	企業・団体	通年		献血実施のための打合せ時	献血協力企業に依頼・情報誌でロゴマークのPR
新規事業所及び団体を10社	"	新規	新規事業所及び団体	通年		企業・団体	企業訪問・各団体での説明会・情報誌での協賛企業紹介

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						方法	内容(詳細に記載すること)
複数回献血者を35%に増加させる。	複数回献血協力者確保対策	継続	年1回の献血者	通年		DMによる協力依頼と複数回献血キャンペーンの実施	献血後6か月を経過した献血者に対して送付している「バスディハガキ献血可能日」を過ぎたタイミングで送付。(年約23,000通)
複数回献血クラブ会員30%増	複数回献血協力者確保対策	継続	複数回献血クラブ会員	通年	4回	会員限定イベントのPRにより会員増を図る	現在実施の会員限定イベント「中巨選手」に加えて(夏休み)献血ウォーキング・スリッパ作り講習会・献血ウォーキング教室の開催

⑤ その他

平成23年度の数値目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						方法	内容(詳細に記載すること)
初回者献血率10%以上を上げる。		新規	高校生・大学生	通年		献血デビューキャンペーンの実施	17歳への基準引き下げPRに併せて初回者及び初回献血者を両併した献血者に対して「ハビット系くみスタンプ」を推進。

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						予定場所	内容(詳細に記載すること)
20代の献血者数を20%まで上げる (平成21年度18.3%)	大分県学生献血サポーター	継続	学推進加盟の学生	7月	1	大分県内	献血バスに同行し、献血会場周辺での献血普及や大分トリニータのホームゲーム両ピッチでの献血協力の積極的サポーターに向けて呼びかける。
20代の献血者数を20%まで上げる (平成21年度18.3%)	二十歳の献血街頭広場	継続	成人者(二十歳)	1月	1	成人式会場(大分市)	献血に関する展示ブースを成人式会場に設け、新成人に献血を呼びかけた。の普及を行う。
参加加盟校10校に増やす (各研修会等の参加が7校/25校)	愛の献血ふれあいフェスタ	継続	九州ブロック学協	8月	1	佐賀県(綿巻)	九州ブロックセンター運営の若年層献血推進事業として開催し、各県の活動報告等を行い献血の重要性などを情報発信する。
参加加盟校10校に増やす (各研修会等の参加が7校/25校)	大分・熊本県学協合同研修会	継続	学推進加盟の学生	2月	1	熊本県	各県学協会の活動報告を行い、グループワーク等により今後の活動計画を協議し、実質の向上や相互の連携強化を図る。
参加加盟校10校に増やす (各研修会等の参加が7校/25校)	大分県学協全体研修会	継続	学推進加盟の学生	5月	1	大分市内(研修施設)	学推進加盟校の学生に献血の意義、現状等を学んでいただき、学内献血や街頭献血のボランティアに活用させていく。
10・20代の献血者数を26%まで上げる (平成21年度22.7%)	クリスマス献血キャンペーン(「赤十字ふれあい広場」)	継続	地域住民・学協	12月	1	センター	県内赤十字施設とともに実施し、冬季の献血者確保と若年層献血の普及や赤十字活動の紹介をする。
10代の献血者数を6%まで上げる (平成21年度4.8%)	若年者献血セミナー	継続	高校生 (支部トレン参加者)	8月	1	トレン会場	支部主催のトレーニングセンターに献血セミナーとしてプログラムに取り入れてもらい、献血者を増やす。
10・20代の献血者数を26%まで上げる (平成21年度22.7%)	学内400mL献血キャンペーン	継続	学内献血者	通年	—	学内献血会場	大学・短大・専門学校での献血において、学生が好む活動品を推進する。

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						予定場所	内容(詳細に記載すること)
参加者100名(各50名)	親子けん付献血	継続	小・中学生の親子(80人)	8月	2	センター・献血ルーム	献血の現場や九州センターを見学し、献血の重要性を理解していただき、将来の献血者を確保する。
参加者90名(各40名)	献血ふれあい	継続	小・中学生 (支部トレン参加者)	7-8月	各1回	トレン会場	支部主催のトレーニングセンターに献血出前授業(「赤十字ふれあい広場」) 「みんなの献血:九州ブロック作成(を教材として使用)としてプログラムに取り入れてもらい、献血の重要性を理解していただいている。

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						予定場所	内容(詳細に記載すること)
献血サポーターロゴマーク10社配布	献血者安定確保	新規	献血協力団体 (LC・事業所)	通年	通1回	—	地方紙の夕刊に週1回献血協力団体へお礼のメッセージを掲載する。協力事業所の社会貢献PRにもなるため、海外による協力依頼にも有効である。

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						方法	内容(詳細に記載すること)
クラブ会員の献血者100人増	複数回献血クラブ 会員ワークショップ	継続	複数回献血クラブ会員	①10月・2月 ②9月 ③2月 ④通年	①2回 ②1回 ③1回 ④随時	情報誌の発行及び医師等の講演会や健康相談(常設相談)を実施する。また、契約などの血液不足時の献血協力メールにて後援する。	
応募率19%	献血協力依頼	継続	複数回献血者	毎月	毎月	17歳以上による献血依頼(1月20～25日会費:1回あたり100人)	街頭献血や事業所献血(依頼許可有り)での過去1～2年の同会場での献血者へのアンケートによる献血促進を進行する。
新規会員100名増	複数回献血クラブ 会員増員	継続	献血者	常時	常時	QRコード入りの会員募集チラシを献血会場に配布する。	QRコード入りの会員募集チラシを献血会場や献血ルームにて全県献血者へ配布する。平成22年度より実施し、効果があったとの報告が行った。

⑤ その他

平成23年度の取組目標	事業名	実施・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						方法	内容(詳細に記載すること)
献血者100人増	ライオンズクラブ献血推進セミナー及び啓発集会	継続	LC委員	7月-11月	2回	セミナー(各クラブより3名)研修会(各クラブ1名)を兼ねて進捗強化を図る	市内37LC献血の推進拡大。委員も献血知識向上や更なる献血の重要性の理解を深めるため、セミナー(110名参加)の開催及び九州センター(40名参加)の視察等を実施し、LC協力献血での献血者を増やしていただく。
女性の比率不達者17%以下にする(422=17.7%)	低ヘモグロビン者啓発啓蒙	継続	低ヘモグロビン等により献血ができなかった協力者	1月-3月	1回	東英士による健康相談	低ヘモグロビン等により献血ができなかった方を中心に健康をサポートし、より多くの方に献血へ協力いただけるよう東英士等による健康相談を実施する。
献血/CSI基準より400mL献血者50名確保(平成22年度計画47.7人)	献血者安定確保キャンペーン	継続	移動献血バス献血者	通年	年5回	協力者高所の見直しや献血用品の見直し	年間5回(各1ヶ月)献血者安定確保キャンペーン(見送品のプラスワン)を実施する。

平成23年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

真鍋 泰 赤十字血液センター

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の取組目標	事業名	実施・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						方法	内容(詳細に記載すること)
20代の献血率が25%にする	献血開始	継続	高校・大学生・専門学校生	4月-3月	5回増	各高校・大学・専門学校	献血に関するセミナーも含め、献血への理解を深めてもらい、献血協力をいただく。(目標:市内献血者対年比200名増)
	学生献血推進団体強化	継続	大学生・専門学校生	6月		血液センター	学生献血推進団体の拡大を図り、市内献血の協力を増やすために、各学校の献血推進窓口を話し合いを呼びかけ一斉開催。メンバーの増員を行う(目標参加者50名)
	自分への献血キャンペーン	新規	16歳-18歳の献血者	通年	12	献血ルーム	16歳-18歳の献血者に得た自分への恩恵を訴えていただき、献血ルームで献血し、誕生日の日に送り出す。(60人/月)
	初めての献血キャンペーン	新規	学生(高校、専門学校、大学)	1月-2月の間		献血ルーム	学生(高校、専門学校、大学)を対象に400mL、成分献血を始めて協力いただいた方に贈答品をプレゼントする。

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の取組目標	事業名	実施・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						方法	内容(詳細に記載すること)
60歳以上の600mL献血者を5%増加させる	400mL献血者確保	継続	60歳以上献血者	通年		各献血会場	60歳を過ぎては年齢制限がない方への献血促進が重要で、特に60歳-64歳までの方の協力を働き、65歳以上の献血の協力促進を目指す。(目標送付対象人数増+1,000名)
55歳以上の血小版献血者を350人確保する	高齢者血小版献血者の確保	新規	55歳以上の献血者	通年		献血ルーム	血小版献血の年齢制限が廃止になることから、高齢者層の血小版献血者(約700人)に対象で血小版献血の必要性と年齢制限の緩和の説明をし、その50%増を目指し、実現させる。

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の取組目標	事業名	実施・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						方法	内容(詳細に記載すること)
新規献血協力企業・団体の確保(70社)	町、区ぐるみ献血参加運動	継続	市町村献血推進協議会企業及び団体	4月-3月		市町村役場での「町、区ぐるみ献血参加運動」会場	行政や献血協力団体と協力し、市町村役場での協力団体の振り起こしを行い、視野の広い協力団体の確保をはかる。

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の取組目標	事業名	実施・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						方法	内容(詳細に記載すること)
応援者3000人	メール発信	継続	献血推進委員会	通年	30	メールによる献血依頼	献血ルームのキャンペーン情報など献血者のポイントとなる情報を2回/月送付する。また、緊急の献血依頼期間のメールを随時、献血と個別、個別に送付する。
応援者1000人	はがき	継続	既献血者(推進委員会主催)	通年	35	はがきによる献血依頼	3か月以上献血していない献血者を対象に、家での献血依頼をおこなう。(300枚×3000/月程度 予定応募率10%)
新献血者500人	新献血者確保と献血再開	継続	献血推進委員会及び新献血者	通年	300	献血チャットによる新献血者確保と献血再開	献血ルームにおける新献血者を対象に(献血チャット)による。また、既献血者にも案内し、献血再開者(リピーター)を確保する。
		継続		通年	20回	Facebookによる新献血者確保	2月の平日に献血ルームの一角で15-20人/日程度実施し、新規献血者を確保する。また、既献血者にも案内し、献血再開者(リピーター)を確保する。

⑤ その他

平成23年度の取組目標	事業名	実施・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						方法	内容(詳細に記載すること)
「町、区ぐるみ献血参加運動」の実施(16回800名の確保)		継続	各町村の住民、企業、団体等	4月-3月	16	各市町村役場での献血依頼	行政や献血協力団体と協力し、市町村役場での協力団体の振り起こしを行い、視野の広い協力団体の確保をはかる。
施設内有利託管理施設の利用者の父兄の献血協力(年間40人)	託児設備	継続	育児中の父兄	通年			施設内有利託管理施設の一時預かり制度(定額制)、利用料金を血液センターで負担することにより、育児中の父兄に献血協力。

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数量目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						予定場所	内容(詳細に記載すること)
献血推進実施者数 1500名	献血推進	継続	10代20代対象	4月～3月	15	血液センター及び各学校	高校・大学・専門学校等若年層を対象に献血計画のお願いの際、献血への理解を深めてもらう。献血計画のお願いも併せて。小学校については、PTA献血の団長で実施しています。小学校～専門学校15校
短大・大学・専門学校献血者2000名	学生献血推進キャンペーン	継続	10代20代対象	4月～3月		各大学他	学生献血推進協議会のキャンペーンにより推進者全開し若年層の献血につなげる。(県内献血推進校11校)

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の数量目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						予定場所	内容(詳細に記載すること)
親子参加者250名	親子献血推進	継続	小学生と保護者	4月	6	血液センター	小学生高学年と保護者を対象に献血の重要性と命の大切さを学んでもらう。実施方法は県及び市の教育委員会経由でイベント提案チラシを配布する。
18歳～39歳献血者参加者1000名	市町村との協働による若年層対策事業	継続	10代～30代対象	4月～3月	20	県内各市町村	市町村の若年層の献血推進を図る為、関係団体と献血との協働ということで20代までターゲットに特定施設も一緒にイベントに併せて献血を実施する。若年層の献血者を増やす。
中学生60名	職場体験学習の受け入れ	継続	中学生	4月～3月	15	血液センター・献血ルーム	献血の重要性や命について学び、献血の呼びかけを行い献血協力をしてもらえたというボランティアの充実感を体験させ、将来への献血導入を図る。

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の数量目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						予定場所	内容(詳細に記載すること)
15団体	新規献血協力企業、団体確保対策	継続	担当者	年度内全期間		県下全域	これまで献血協力関係の無い企業、団体の担当者(労働管理代表者)と面会し、献血の必要性を強く訴え協力を得られるよう内容とする。
52団体	献血協力企業確保対策	継続	献血協力団体の担当者	年度内全期間		県下全域	献血協力率高所の団体にに対し、献血サポーター制度について説明し継続的な献血協力を依頼する。

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の数量目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						方法	内容(詳細に記載すること)
メール・ハガキによる献血回数(月に2回以上) ※以下全て、魅力ある複数回献血クラブにするための対策	複数回献血協力者確保事業	継続	複数回献血クラブ会員	毎月	月に2回程度	メール・ハガキ	メールは月に2回程度、ハガキは年に2回程度としているが、血液不足の献血依頼はメール・ハガキともに年2回ずつとしている。(通常は新作本・DVD案内、抽選会、ハンドマッサージの案内等、献血者の利益となる内容のみ)
抽選会(年間10回程度)	複数回献血協力者確保事業	新規・継続	複数回献血クラブ会員が主であるが、それ以外の方も	血液不足時	不定期	メール・ハガキ	抽選に見合った献血という観点から、血液不足時に実施。伝達手段は、メール・ハガキ。※一割：クリスマス抽選会、抽選参加対象者は受付者全員とし、賞品は、ケトル(千円程度1名)、マフラー(五百円程度3名)、電波時計(五百円程度3名)、変圧器(百円程度、カブト)とし、2日抽選実施。
ハンド・マッサージの実施(年間4～5回)	複数回献血協力者確保事業	継続	複数回献血クラブ会員が主であるが、それ以外の方も	毎週月	二ヵ月に一回程度	メール・掲示板	二ヵ月～三ヵ月に一回程度の実施。伝達手段は、メール、掲示板であるため、複数回献血クラブの方が主となるが、時間的な余裕があれば、会員以外の方も。
献血予約制度の強化(月500名以上)	複数回献血協力者確保事業	継続	複数回献血者	毎日	毎日	執上の用紙・掲示板	次回の献血者に献血の予約をお願いしている。
複数回献血クラブ会員優先事業	複数回献血協力者確保事業	新規・継続	複数回献血クラブ会員、一般献血者、その他	不定期	年三～四回	メール・広報紙	複数回献血クラブ会員へ優先的に案内し、不足分をそのほかの方で補う。ヨーガ・アロマリフレ等を実施する。
栄養講話+AED講習会(年1回)	複数回献血協力者確保事業	継続	複数回献血クラブ会員	2月頃	年に一回	メール・掲示板	年に一回、複数回献血クラブの会員の方を対象に実施。

⑤ その他

平成23年度の数量目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						方法	内容(詳細に記載すること)
応募率27%以上	はがきによる400mL献血依頼	継続	400mL献血依頼者	年度内全期間	全献血会場	献血依頼はがきの郵送	献血推進委員会において過去3年以内に400mL献血履歴のある方を対象にデータを出し献血協力を呼びかける。

